

1才6カ月児健康診査実施についての研究

分担研究者 伊藤 みよ(松戸市)
研究協力者 出口 佐代子(松戸市衛生部)
野鳥 久美子(")
加藤 まち子(")

I はじめに

乳幼児の健全育成をめざして各期に乳幼児健診が実施され、1才6か月児健診は昭和52年度に市町村を実施主体として勸奨された。

当市では12ヶ月児健診、2才児歯科健診(保健所と協力)を、昭和53年度より1才6か月児健診に組みかえることにして、昭和52年度はモデル地区において1才6か月児健診を実施し、健診の方法、問題点を検討した。対象児7500人を集団健診で実施することは、他の事業との関連や従事する医師、心理士等の専門職種の確保を考えると困難であり幸い当市は母子管理の中で、出生届出時点で全数を把握し、ハイリスク児の管理は行なっており、乳児健診の結果も把握しているので、乳児期の身体的な問題、重症心身障害児はすでに発見され、管理ルートにのっている者が多い。又、モデル地区における健診の受診前質問票において発見された問題の多くが、すでに母親により観察されていることから、アンケートがスクリーニングに活用できるのではないかと判断を得た。⁽¹⁾

そして昭和53年度より、全数を対象に一般健診と歯科健診に分け、一般健診はアンケートによる選択健診⁽²⁾の形で、歯科健診は全数呼出し、歯科衛生士の口腔チェックによる選択健診の形で1才6か月児健康診査を実施している。発見される問題は昭和52年度のモデル地区での結果と同じ傾向であり、出生時より管理を行なっている実状の中では、アンケートによる選択健診も可能ではないかと報告した。⁽³⁾

アンケートによる選択健診を実施する上での課

題として、目標を落とさないためのアンケート内容の検討、選別するスタッフのレベルアップ、対象児の保健教育をどうするかがいわれているが、当市の場合をこれにそって考えてみるとアンケート内容の再考、選別するスタッフのレベルアップと併せて選別の基準として使用しているスクリーニング基準の信頼性の検討がまず必要である。

そこで今年度は当市で作製し使用しているアンケート(参考1.2)が必要なことを網羅しており、母親にとって理解しやすく、記入しやすいものであるか、又、当市医師会小児科医会と事前に協議して決めたスクリーニング基準(表1)が信頼できるものであるかをモデル地区を選定し、アンケートで問題なかった者、アンケート未返送者全てを対象に、健診を実施し、検討を加えたので報告する。

II 対象

当市の人口構成を代表し、当市の特徴である一般住宅地、団地、商店街を含む地区を選び53年3月～5月生465人を対象とした。これは1才6か月児健診該当数7460人(見込み)の6.2%にあたる。

III 方法

健診は54年10月～12月まで月1回計3回行ない、受診月令は1才7ヶ月で選択健診の場合と同じ時期に行なった。対象者には選択健診の場合と同じようにアンケート郵送後、いったんアンケートを返送してもらった。これは受診前質問票の形をとると、健診時直接話せるということで、詳細な相談事等の記入が少なくなり、正確な検討が加えら

れなくなるのではないかと判断したからである。そして健診の10日前にアンケートで返送あった者(スクリーニング基準でみて問題ある者、ない者全てを含む)、未返送者にあらためて健診の通知を行なった。未返送者にはアンケートを持参するように通知した。健診の内容は選択健診と同じで小児科医、心理士、保健婦、看護婦、事務員が従事した。従事数は選択健診より対象数が多かったことと、詳しいチェックを行なうために増員した。問診では、事前に返送済(又は当日持参)のアンケートの全項目について聞きとりを行ない、必要なことがもれていないか、設問への記入もれや誤記入はないか、又、記入もれや誤記入の理由は何か詳しくチェックした。心理判定はPDQ⁴⁾8点以下の者について行なった。従事者は事前に打合せを行ない、同一スタッフが従事するよう配慮した。

Ⅲ 結 果

1) 健診実施状況は表2に示したが対象465人中受診数は257人(55.3%)、問題ありは51人(19.9%)であった。選択健診の受診率より低かった。問題ありの所見内容を表3に示したが、養護の問題が最も多く51人中17人(33.3%)、次に内科的な問題と精神(言語)発達の問題10人(19.6%)の順に多かった。これを54年4月~9月までの選択健診の結果(表4)と比較してみると、選択健診では最も多いのは精神(言語)発達35.4%、次に外科的な問題、小奇形15.7%、次に眼科的な問題と養護の問題12.9%となっており、今回の健診では選択健診より養護の問題、内科的な問題について、よく把握できていることがわかった。

先天的な疾患、けいれん、慢性疾患、停留睪丸、皮膚疾患はすでに管理されていた。53年度までにはみられなかった川崎氏病が選択健診結果も含めると数例みられたが、罹病後も定期健診を受けていた。初発見は精神(言語)発達と内科的問題の1部、外科的問題、眼の問題にみられた。初発見の傾向は選択健診についても同じであった。

2) 選択健診の場合、アンケートからスクリーニングされた児のみが健診を受けるので、そのスクリーニング基準の信頼性が問題となるが、受診児の所見内容とアンケートによるスクリーニングとの関係を表5に示した。表中のその問題とは健診時

所見と同じ問題、他の問題とは健診時所見とは違う問題でスクリーニングされたということであり、該当なしとはアンケートではスクリーニングできなかったということである。アンケートでは健診時所見のあった51人中35人(68.6%)がその問題でスクリーニングでき、14人(27.5%)がスクリーニングできなかった。喉頭炎と食事に関する問題の2人は他の問題(ころびやすいという相談、予防接種未接種)でスクリーニングしていた。アンケートでスクリーニングできなかった14人が選択健診では見おとすことになるが14人中7人(50%)は養護の問題であった。

内容的にみると、発達の問題は10人中9人がPDQでスクリーニングでき、該当なしの1人は未熟児(1550g)で出生し、未熟児網膜症の術後の経過観察を受けている児であったが、アンケートには出生時の蘇生術のことや既往症、治療中の病気の記入がもれており、PDQは9点であった。しかしこの児はアンケートが十分記入されていても発達の問題ではスクリーニングできなかった。先天性的疾患、神経系の問題はアンケートでは該当する設問や治療中の病気、又は相談事項に記入されていた。内科的な問題も同様にして把握できる者が多い。外科的問題・小奇形では特に歩行については昭和53年度は該当する設問がなく全て母親からの相談事でスクリーニングしていたので、今年度は現在の状況欄に2項目設けたところ、その項目でスクリーニングされた。停留睪丸については相談事に記入されていた。表4も併せてみるとソ径ヘルニア、尿道下裂、副耳等については全て母親からの相談事で把握しており、ほとんどのケースが初発見ではなく、適切な経過観察がなされていた。目の問題では斜視の3人はアンケートではスクリーニングできなかった。母親が斜視に気づいていなかったかということ、3人のうち2人は気づいていたがアンケートの目つきや目の動きが悪いという心配はないかという質問にはこの程度では大丈夫と判断して心配ないと答えていた。1人は問診場面で保健婦も気づかない程度の軽いものであった。精密検診で眼科に紹介した結果、母親も気づいていた2人はみかけ上の内斜視で心配なく、1人は全く正常だった。表4でみると目

の問題はアンケートの該当する設問と相談事でスクリーニングされている。

皮膚疾患については治療中の場合はアンケートで把握できるが、それ以外はアンケートでは把握できなかった。表4についても同じであり、アンケートからスクリーニングできるのは治療中、相談事に記入してある場合であった。

養護の問題については17人中9人(52.9%)がアンケートからその問題でスクリーニングできたが全て相談事項からであった。アンケートで把握できない7人の問題の内容は、食事に関すること4人、異常に母親にしがみついて離れない1人、子どもには問題ないが母親の不安2人であった。養護の問題は1才6か月児は乳児期から幼児期への移行期にあり食事、生活習慣の面でも問題が起きやすい時期であり、適切な保健指導が全員になされる必要があるためアンケートからの把握だけでなく、全員呼出しで実施している歯科健診場面で養護の問題は把握している。参考までに歯科健診場面での個別相談状況を付記すると表6に示すように養護の問題が55.2%を占めている。歯科健診場面では問診時児を観察し、気になるケースは個別相談に回るよう指導し、集団指導時養護面で問題のある児も個別相談を受けるようにすすめている。

3) 今回のモデル地区健診の結果とアンケートによるスクリーニングとの関係は以上であるが、選択健診の場合スクリーニング項目別にみた所見状況がどうであったかを53年6ヶ月分、54年3ヶ月分のアンケート回収数4662人、アンケートからのスクリーニング数865人について表7に示した。スクリーニングは未記入の場合も行なっているので正確な問題ありの率とはいえないがスクリーニングされた総数のうち未受診児も含めて状況把握できた数を100%とみて表わした。既往症についてはアンケートの記入も少なくスクリーニングされる総数が少ないので問題ありはないが既往症への配慮は必要と思われる。予防接種未接種と体重・身長でスクリーニングされた児の問題ありの率は10%未満であるが、両項目とも養護の面との関連が高い。問題ありの率が50%以上あるのは罹病傾向(ひきつけ)、始歩の時期、心臓異常、聴力、周囲に無関心の項目であった。

4) アンケート内容が必要なことを網羅していてもアンケートが理解しにくく、記入洩れや誤記入が多くては目標を達成することはできない。アンケートに記入もれや誤記入がどのくらいあったかを表8に示した。記入もれは257人中74人(28.8%)にあり、延152件であった。最も多かったのが今までの状況欄の(4)予防接種で39件(25.7%)を占めた。中でも2.麻疹についての記入もれは27件であった。これは健診とほぼ同一時期に個別接種の受診券を発送しているため、「受ける予定なので記入しないでアンケートを返送した」という母親が多かった。次に今までにかかった病気の26件(17.1%)で、内容は突発性発疹が19件で、記入しなかった理由として「たいしたことはなかったので記入しなくてよいと思った」母親が多かった。次は近親婚の有無で14人みられた。又、妊娠、分娩時の状況の記入もれは全部で19人、健診の状況は18人あり、その理由として「うっかりしていた」「記憶していなかった」と答える者が多かった。記入もれは発達の状況、現在の状況欄では少なかった。スクリーニング基準との関係では記入もれはスクリーニングしているため、取りこぼしにはなっていない。

次に誤記入の状況をみると257人中34人(13.2%)にみられ、延53件で記入もれに較べると少なかった。(4)妊娠中の母の異常が8人(15.1%)で最も多く、妊娠・分娩時の状況17人、今までの状況8人、健診の状況11人、現在の状況15人と分散してみられた。理由として妊娠・分娩時の状況、今までの状況、健診の状況は母子健康手帳をみないで記入しているため記憶違いが多く、現在の状況の(1)ひとみが白くみえるかあるいは光って見えることがあるかでは電灯の光等にあたりとそう見えることがあったから、(2)(3)(4)養護の項目では判断の基準をより高度なレベルにおいており、うちの子はまだできないからという判断のくい違いがみられた。スクリーニング基準との関係では母親が深く考えたり、高いレベルにおいているのでとりこみにはなってもとりこぼしにはなっていない。

IV 考 察

1) 当市を代表するモデル地区において健診を実施

し、受診したのは対象数465人中257人(受診率55.3%)であった。これは1才6か月児健診該当数7400(見込み)の3.4%であった。健診時問題ありは51人(19.9%)で、内容は選択健診と同じような傾向であるが、養護の問題が最も多く、選択健診より養護の問題、内科的な問題についてよく把握できていることがわかった。初発見は精神(言語)発達、内科的問題、外科的問題、眼の問題にみられ選択健診の場合と同じであった。

2) 受診児の所見内容とアンケートによるスクリーニングとの関係では健診時所見と同じ問題でアンケートでスクリーニングできたのは51人中35人(68.6%)で、アンケートでスクリーニングできなかったのは14人(27.5%)、そのうち7人は養護の問題であった。

内容的にみると発達の問題は10人中9人がPDQでスクリーニングでき、スクリーニングできなかった1人は未熟児出生で出生時の状況や既往症、治療中の病気が記入されていなかったものの発達の問題ではスクリーニングできないケースであった。早産未熟児は成熟児に比べると発達が遅い場合がみられるので未熟児管理の中で一考を要するものと考え。先天性の疾患、神経系の問題はアンケートの該当する設問や治療中の病気、相談事項で把握できるが、一時的な疾患、体質的な問題はアンケートでは把握できないといえる。外科的問題については歩行に関しては該当する設問で把握できるがソ径ヘルニアや小奇形については全て母親からの相談事項で把握していた。先天性疾患、慢性疾患、長期の経過観察が必要な疾患、小奇形等はすでに適切な医療管理下にある場合が多いが、アンケートでは治療中の病気や相談事項でしか把握できないので、今後アンケートの設問に定期健診や経過観察を受けている問題も把握できるように加えていく必要がある。

眼の問題は該当する設問でスクリーニングできるが、母親が気づいていてもアンケートに記入しないと見落とされることになるので母親に対してできるだけ正しく判断してアンケートに記入することができるようにあらゆる機会に保健教育を行なって認識してもらう必要がある。

3) 養護の問題についてはアンケートで把握できた

のは17人中9人(52.9%)であるが、この時期は養護に関する問題は生じやすく、それに関する保健指導は1才6か月児健診の目標の1つであり、当市では歯科健診の中に組みこんで養護の問題に対する個別相談を行なっている。選択健診の場合保健指導が全員に行なえず、養護の問題の把握が十分できないので、いずれかの形で保健指導の機会を設ける必要がある。

4) 選択健診時のスクリーニング項目別の所見状況では既往症、予防接種未接種、体重・身長項目は問題有の率は低く、罹病傾向(ひきつけ)、始歩の時期、心臓異常、聴力、周囲に無関心の項目では問題有率は高かった。

5) アンケートの記入もれは妊娠・分娩時の状況、今までの状況、健診の状況欄に多く、健診とほぼ同一時期に受診券を送っている予防接種の麻疹を除き、うっかりや詳細を記憶していないための記入もれが多かったので、母子健康手帳を参照して記入するようにアンケート発送時注意書きを添えることによって減少できると思われる。又誤記入も同様の注意でかなり減少できると思われる。スクリーニング基準との関係ではとりこみにはなってもとりこぼしにはなっていなかった。

V 終りに

ここ3年間、出生数の多い中都市における健診の方法としてアンケートによる選択健診を模索してきた。今回の健診結果、歯科健診での個別相談内容、今までの選択健診の結果をあわせて検討してみると、治療中の病気や相談事項で把握している定期健診や経過観察を受けている問題について質問項目を設け、併せて身体的な問題で悩んでいることがないかを質問し、早産未熟児への配慮を行ない、母親への保健教育の機会が配慮されれば、現在のアンケートやスクリーニング基準で、一時的な疾患や養護の問題を除きほぼ把握できるのではないと思われる。

養護の問題については1才6か月児健診のひとつの大きな目標である保健指導とあわせて歯科健診時に把握しているので、全数対象の保健指導の機会を設けることができるならば、アンケートによる選択健診の形でも1才6か月児健診の目標は達成できるのではないと思われる。

しかし、歯科健診の受診率は65%前後で全員に実施できていない。アンケート未返送児の追跡は行なっているものの、アンケート未返送児は歯科健診も未受診のことが多く、母親への保健教育が今後の重要な課題である。

健診では健診に従事するスタッフの質が問われるように選択健診ではスクリーニングに従事するスタッフの質が問題であるが、特別な教育を受けて従事しているわけではないので選択健診の場合、スクリーニングに従事するスタッフの質は重要な要素である。

今後アンケートの返送率を高めると同時に歯科健診の受診率を高め、母親への保健教育にも積極的にとりくみ、より充実した1才6か月児健診を志向していきたい。

最後にこの健診を実施するにあたり種々の御指導、御協力をいただきました東大母子保健教室の平山教授、上田先生 並びに当市医師会小児科医会に深く感謝いたします。

文献・参考

- 1) 伊藤みよ 1才6か月児健康診査モデル実施報告 昭和52年度厚生省「母子保健医療システムに関する研究」研究報告
- 2) 窪田英夫 乳幼児健診のこれからのすすめ方 総合乳幼児研究臨時増刊 1978
- 3) 伊藤みよ 1才6か月児健康診査実施についての研究 昭和53年度厚生省「母子保健医療システムに関する研究」研究報告
- 4) 上田礼子 発達スクリーニング用質問項目 (Prescreening Developmental Questionnaire.) に関する研究 医学のあゆみ 104, 1978
- 5) 中山健太郎他 1才6か月児健康診査の手びき 日本小児保健協会監修 1978

<表1> アンケートからのスクリーニング基準

	アンケート 質問番号	質問内容	スクリーニング基準
1	(9)	今までにかかった比較的重い病気	2.ニ. その他の病気で新生児期の高熱が記入してあるもの
2	10	病気にかかりやすいか	2.イ. ひきつける、有熱、無熱にかかわらず1回以上あり、主治医のいない者
3	10	“	2.ホ. ぜいぜい しやす いへ、 湿疹 } 同時記入されており、主治医のいない者
4	11	予防接種	1.ポリオ 3.ツ反、BCG } 共に受けていない者
5	15	2～3歩、歩けるようになったのは	アンケートの時点で歩けない者
6	16 17	乳児健診 その他の健診	1度も受けていない者
7	19	心臓異常	心臓に異常がある子供で定期的診療または検査を受けていない者
8	21	最近の体重・身長	パーセンタイル値で3p以下 97p以上の者
9	22 23	歩き方がおかしいか	2.はい(歩き方がおかしい)と答えている者
10	25 26 27 28	目の機能	異常の方に1つでも印がつけてある者 (2の方に○印)
11	29 31	聴力(ふつうの声 電話・ベルの音)	どちらとも、2.いいえ(ふり向かない、気がつかない)と答えている者
12	38	異常におとなしいか	2.はい(異常におとなしい)と答えている者
13	39	周囲の人に対して無関心か	2.はい(無関心)と答えている者
14		その他の心配事 相談事	内容により
15	裏面 (1) ~ (12)	P D Q	月齢に応じて10点中7点以下 8点(ことば)

<表2> 54年度モデル地区健診実施状況

出生月	対象数	受診数	受診率	問題なし	問題あり	問題ありの率
53年3月生	141	76	53.9%	54	22	26.0%
“ 4月生	154	89	57.8%	73	16	18.0%
“ 5月生	170	92	54.1%	79	13	14.1%
計	465	257	55.3%	206	51	19.9%

<表3> 54年度モデル地区健診受診の所見内容

51件(51人)

分類	所見内容	再掲 人数(初発見)	分類	所見内容	再掲 人数(初発見)
精神 (言語) 発達	DDST異常	1 (1)	内科	ぜいぜいしやすい	1 (1)
	" 疑問	6 (6)	外科・小奇形	歩行障害	1 (1)
	" 正常・要経過	2 (2)		内反足	1 (1)
	発達遅滞	1		足の変形	1 (1)
先天性	先天性心臓疾患	2	眼	停留嚙丸	1
	先天性白内障	1		斜視	3 (3)
神経	けいれん・ひきつけ既往	2	皮膚	小児ストロフルス	1
	臍腸の術後管理中	1		アトピー性皮膚炎	1
内科	川崎氏病(定期健診中)	1	養護	食事	9
	喘息	2		生活習慣	5
	喉頭炎・口内炎	2 (2)		母親の不安	3
	体重少・小柄	2		計	51 (21)
	よく熱発する・ツ反のすすめ	1 (1)			

<表4> 選択健診の所見内容

178件(174人) 544~9実施分

分類	所見内容	人数 再(初発見)	スクリーニング項目	分類	所見内容	人数 再(初発見)	スクリーニング項目
精神 (言語) 発達	DDST異常	9(8)	PDQ	外科	ソ径ヘルニア	3(1)	相(ヘルニア)
	" 疑問	17(17)	"		停留嚙丸	2(1)	PDQ, 相(停翠)
	" 正常・要経過	4(4)	" 相		包茎	1	歩き方
	発達遅滞	5	PDQ		尿道下裂	1	相(尿道下裂)
	ことばの遅れ	26(26)	PDQ, 相		副耳	1	相(副耳)
	情緒不安定	1(1)	PDQ		斜頸の疑い	1(1)	PDQ
先天性	多動	1(1)	相	小奇形	舌小帯短縮	1	相(舌小帯)
	小計	63(57)	35.4%		頭部打撲後遺症の不安	1	歩き方, 目つき, 目の動き, 相(不安)
	ダウン症	3	治療中の病気		火傷	1	相
	先天性難聴	1	聴力, 相(難聴)		小計	28(16)	15.7%
	先天性心疾患	1	健診結果		斜視	13(11)	目つき, 目の動き, 相(目)
神経系	LCC	2	股脱検診結果	眼	斜視の疑い	4	"
	けいれん服薬中	1	相		角膜反射	1(1)	"
	CP	3	相		視力異常の疑い	1(1)	"
	てんかん	1	既往症		逆さまつげ	1(1)	PDQ, 相(目)
	小計	5	2.8%		眼瞼内反	1(1)	目つき, 目の動き
内科	気管支炎	1(1)	PDQ, 相(体質)	皮膚	眼瞼はれぼったい	1(1)	PDQ
	アレルギー性気管支炎	4(3)	PDQ, 相(体質)		眼瞼下垂	1	治療中の病気
	頸部リンパ腫腫脹	1(1)	PDQ		小計	23(17)	12.9%
	体格小	7	PDQ, 体重, 身長		母斑	2(1)	相(斑)
	喘息ぎみ	1	相		血管腫	1	PDQ
	腹部腫瘍	1	相		伝染性軟属腫	2(1)	PDQ, 相(イボ)
外科・小奇形	川崎氏病	2	治療中の病気	養護	アトピー性皮膚炎	2(1)	PDQ
	小計	17(5)	9.6%		湿疹	3(2)	PDQ
	O脚	2(1)	歩き方		頭髪脱毛	2	相(脱毛)
	LCC	1	"		小計	12(5)	
	LCCの疑い	2(1)	相(歩き方)		食事	9	
内反足	歩行不安定	9(9)	PDQ, 相(歩き方), 歩き方	生活習慣	生活習慣	6	
	内反足	2(2)	PDQ, 歩き方		その他	8	
				小計	23	12.9%	

<表5> 54年度モデル地区健診受診児の所見とアンケートによるスクリーニングとの関係

カ 類	健診結果	数	アンケートによるスクリーニング			該 当 な し の 内 容
			その問題	他の問題	該当なし	
精神 (言語)発達	DDST異常	1	1			
	DDST疑問	6	5		1	未熟児(1550g)網膜症の術後経観中PDQ9
	“ 正常・要経観	2	2			
	発達遅滞	1	1			
先天性	心疾患治療中	2	2			
	先天性白内障	1	1			
神経系	けいれん服薬中	2	2			
内 科	臍嚢の術後管理中	1	1			
	川崎氏病経観中	1	1			
	喘息・喉頭炎・口内炎	4	2(喘息)	1	1(口内炎)	
	体重少小柄	2	2			
科	よく熱発する、ツバのすずめ	1	1			
	ぜいぜいしやすい	1			1	
外科・ 小奇形	歩行障害	1	1			
	内反足	1	1			
	足の変形	1	1			
	停留嚢丸経観中	1	1			
眼	斜 視	3			3	2人みかけ上の内斜視で心配なし(左右差問題なし)1人異常なし
皮 膚	小児ストロフルス治療中	1	1			
	アトピー性皮膚炎	1			1	
養 護	食 事	9	4	1	4	未熟児(2470g)少食・食べない哺乳ビン使用・牛乳の多飲・偏食
	生活習慣	5	4		1	母親にべったり
	母親の不安	3	1(よく ころぶ)		2	PDQ9ことばが少ない・水痘のあとが気になる
	計	51 (100%)	35 (68.6%)	2 (3.9%)	14 (27.5%)	

<表6> 歯科健診時個別相談内容 544～9実施分

	主 訴	相 談 数
言 語	ことばが遅い	37
	口唇裂の術後の構音障害	1
	小 計	38(21.0%)
身 体	けいれん既往	3
	未熟児・幼い感じ	2
	小さい・細い・体重少	8
	肥満	3
	下痢・便秘	3
問 題	歩くのが遅い・歩き方がおかしい	12
	〇 脚	2
	ソ径ヘルニア	1
願 望	鎖肛の術後	1
	斜視・まぶしがる	5
	眼瞼下垂	1
	湿疹・アトピー性皮膚炎	2
	小 計	43(23.8%)
	養 護	食 事
生活習慣		21
母親の不安		5
その他		4
小 計		100(55.2%)
	合 計	181(100%)

<表7> スクリーニング項目別にみた選択健診所見状況

(53.54年合計)

スクリーニング項目	総数(回収率に対して)	受診	状況把握	問題なし	問題あり
既往症	1 (0.02)%	1	1 (100)%	1 (100.0)%	0
罹病傾向(ひきつけ)	13 (0.28)	9	13 (")	6 (46.2)	7 (53.8)
" (湿疹状ひき)	11 (0.24)	9	11 (")	6 (54.5)	5 (45.5)
予防接種	166 (3.56)	97	153 (")	143 (93.5)	10 (6.5)
始歩の時期	9 (0.19)	9	9 (")	3 (33.3)	6 (66.7)
健診歴	27 (0.58)	14	24 (")	18 (75.0)	6 (25.0)
心臓異常	7 (0.15)	6	7 (")	3 (42.9)	4 (57.1)
体重・身長	35 (0.75)	28	33 (")	27 (81.8)	6 (18.2)
歩き方	64 (1.37)	46	60 (")	43 (71.7)	17 (28.3)
目の機能	126 (2.70)	96	112 (")	74 (66.1)	38 (33.9)
聴力	10 (0.21)	6	7 (")	3 (42.9)	4 (57.1)
異常におとなしい	21 (0.45)	17	20 (")	14 (70.0)	6 (30.0)
周囲に無関心	8 (0.17)	6	7 (")	2 (28.6)	5 (71.4)
P D Q	288 (6.18)	211	272 (")	174 (64.0)	98 (36.0)
相談事	266 (5.71)	196	243 (")	181 (74.5)	62 (25.5)
計	1052 (22.6)	751	972 (")	698 (71.8)	274 (28.2)
実人数	865 (18.6)	591	792 (")	566 (71.5)	226 (28.5)

アンケート回収数

4662

53年 実人員 554人 634件

54年 " 311人 420件

<表8> アンケートの記入もれ・誤記入状況

アンケート設問内容		記入もれ	誤記入
保育状況	(1) 主にお子さんをみている方	10件 (6.6%)	
	(2) 保育所・託児所に行っているか	7 (4.6%)	
近親婚	(3) 有無	14 (9.2%)	
	(4) 妊娠中の母の異常	5 (3.3%)	8件 (15.1%)
妊娠・分娩時の状況	(5) 分娩時の異常	3 (2.0%)	4 (7.5%)
	(6) 出生児体重	1 (0.7%)	3 (5.7%)
	(7) 出生時の児の状態	10 (6.6%)	2 (3.8%)
	(8) 今までにかかった病気(伝染病)	26 (17.1%)	1 (1.9%)
今までの状況	(9) 今までにかかった比較的重い病気	3 (2.0%)	1 (1.9%)
	(10) 何か病気にかかりやすいことがあるか	3 (2.0%)	2 (3.8%)
	(11) 予防接種	39 (25.7%)	4 (7.5%)
発達経過	(12) 首がしっかりすわったのは		1 (1.9%)
	(13) おすわりができたのは	2 (1.3%)	
	(14) つかまり立ちができたのは	1 (0.7%)	
	(15) ひとりですわったのは		1 (1.9%)
健診状況	(16) 乳児健診を受けたか	1 (0.7%)	4 (7.5%)
	(17) その他に最近健診を受けたか	4 (2.6%)	3 (5.7%)
	(18) 上記の健診で何か注意を受けたか	9 (5.9%)	2 (3.8%)
	(19) 今までに健診で心臓に異常があるといわれたことがあるか	1 (1.0%)	
	(20) 股関節脱臼検査を受けたか	1 (0.7%)	2 (3.8%)
	(21) 最近測定した体重・身長	2 (1.3%)	
	(22) 歩き方がおかしいと思うか	1 (0.7%)	
	(23) 現在治療中の病気があるか	3 (2.0%)	
現在の状況	(24) 目つきや目の動きが悪いという心配があるか	1 (0.7%)	1 (1.9%)
	(25) ひとみが白く見えるかあるいは光って見えることがあるか	1 (0.7%)	3 (5.7%)
	(26) 極端に光をいやがるか	1 (0.7%)	
	(27) スプーンを使って自分で食べようとするか		3 (5.7%)
	(28) 上衣を自分で脱ごうとするか		4 (7.5%)
	(29) おしっこやうんちのしつけを始めたか		1 (1.9%)
	(30) 食べものでひどい偏食があるか		1 (1.9%)
	(31) 1日の食事はミルクや母乳が主か	1 (0.7%)	
	(32) お子さんは異常におとなしいか		1 (1.9%)
	(33) お子さんは周囲の人に対して無関心か		1 (1.9%)
	(34) P D Q	2 (1.3%)	
計		152 (100.0%)	93 (100.0%)
実人数		74人	34人


お子さんの健康状態を知るためのアンケート

(参考1)

幼児氏名	生年月日	性 別	・ ・ 生 男 ・ 女	保護者	職業	出生順位	第 子
住 所	TEL()				アンケート記入者	1 2 3 4 5	父 母 祖 父 祖 母 ()
同居し 家族で いる 状況	子供の 父 年令 才	職業:	1.健康 2.病気()	(1)主にお子さんをみている方:			
	母 年令 才	職業:	1.健康 2.病気()	昼()夜()			
	きょうだい 人	1.健康 2.病気 3.死亡した()人, 死因()	(2)お子さんは保育所または託児所に行っていますか				
	祖 父 母 人	1.健康 2.病気()	1.はい 2.いいえ				
	その他の同居人 人	1.健康 2.病気()	(3)近親結婚 1.あり(関係) 2.なし				
妊娠 分娩 時の 状況	(4) 妊娠中の母の異常	1.なし 2.あり(イ. 妊娠中毒症 ロ. 貧血 ハ. 切迫流・早産 ニ. その他)					
	(5) 分娩時の異常	1.なし 2.あり()					
	(6) 出生時体重	♀ 生まれたのは 1.予定どおり 2.早く生まれた()日 3.遅く生まれた()日					
	(7) 出生時の児の状態	1.異常なし 2.異常あり (イ. 仮死 ロ. 強い黄疸 ハ. けいれん ニ. 保育器使用) (コ. 酸素使用 ヘ. その他)					
今 ま で の 状 況	(8) 今までにかかった病気(伝染病)はありますか	1.なし 2.あり(イ. 麻疹 ロ. 風疹 ハ. 水痘 ニ. 流行性耳下腺炎 ホ. 百日咳 ヘ. その他)					
	(9) 今までにかかった比較的重い病気はありますか	1.なし 2.あり(イ. 肺炎・気管支炎 ロ. 消化不良 ハ. 外科手術 ニ. その他)					
	(10) 何か病気にかかりやすいことがありますか	1.なし 2.あり (イ. ひきつける 発熱時 回 ロ. 下痢しやすい ハ. よく熱を出す ニ. すぐ咳が出る 熱のない時 回) (ホ. せいぜいしやすい ヘ. 湿疹 ト. その他)					
	(11) 予防接種	1.小児マヒ生ワクチン(ポリオ) イ. 受けた ロ. 受けない					
		2.麻疹(はしか)ワクチン イ. 受けた ロ. 受けない					
発 達 の 経 過	(12) 首がしっかりすわったのは	生後 月 日の頃です					
	(13) おすわりができたのは	生後 月 日の頃です					
	(14) つまみ立ちができたのは	生後 月 日の頃です					
	(15) ひとりで2〜3歩あるけるようになったのは	生後 月 日の頃です					
	健 診 の 状 況	(16) 乳児健診を受けましたか	3〜4ヶ月 1.はい 2.いいえ 9〜10ヶ月 1.はい 2.いいえ				
(17) その他に最近健診を受けましたか		1.はい(いつ)どこで 2.いいえ					
(18) 上記の健診で何か注意を受けましたか		1.はい(いつ)内容 2.いいえ					
(19) 今までの健診で心臓に異常が有ると言われたことがありますか		1.はい(いつ)どこで 2.いいえ					
(20) 心臓に異常があると言われた方は今も定期的診察及び検査を受けていますか		1.はい 2.いいえ					
現 在 の 状 況	(21) 股関節脱臼検査を受けましたか	1.はい(イ. 異常なし ロ. 異常あり) 2.いいえ					
	(22) 最近測定した体重, 身長をお書きください	計測日: 月 日 体重: Kg 身長: cm					
	(23) よく歩けますか	1.はい 2.いいえ					
	(24) 歩き方がおかしいと思いますか	1.いいえ 2.はい(具体的に)					
	(25) 現在治療中の病気がありますか	1.いいえ 2.はい()					
	(26) 目つきや目の動きが悪いという心配がありますか	1.いいえ 2.はい					
	(27) よく見えていると思いますか	1.はい 2.いいえ					
	(28) ひとみが白く見えるかあるいは光って見えることがありますか	1.いいえ 2.はい					
	(29) 極端に光をいやがりますか	1.いいえ 2.はい					
	(30) 普通の声で名前を呼んで振り向きませんか	1.はい 2.いいえ					
	(31) 簡単な言いつけ(例:新聞を持ってらっしゃい)が理解できますか	1.はい 2.いいえ					
	(32) 電話の音またはベルの音に気がつきませんか	1.はい 2.いいえ					
	(33) スプーンを使って自分で食べようとしますか	1.はい 2.いいえ					
	(34) 上衣を自分で脱ごうとしますか	1.はい 2.いいえ					
	(35) おしっこやうんちのしつけを始めましたか	1.はい 2.いいえ					
(36) 食べものでひどい偏食がありますか	1.いいえ 2.はい						
(37) 1日の食事はミルク(牛乳も含む)や母乳が主ですか	1.いいえ 2.はい						
(38) テレビや音楽に合わせてからだを動かしますか	1.はい 2.いいえ						
(39) お子さんは異常におとなしいですか	1.いいえ 2.はい						
(40) お子さんは周囲の人に対して無関心ですか	1.いいえ 2.はい						

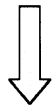
裏もお書き下さい。

(参考2)

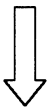
		1.はい	2.いいえ わからない	3.やらない	4.やった ことがない	
現 在 の 状 況	(1) ほしぶどうのような小さな物をひろいあげる時に図のように親指と人さし指だけを使いますか 	1	2	3	4	
	(2) はっきりとわかる音でことばをまねしますか。ありましたら2~3書いてください。	1	2	3	4	
	(3) 5秒くらいの間、何かにつかまらなくてもひとりで立っていますか	1	2	3	4	
	(4) 30秒以上、何かにつかまらなくてもひとりで立っていますか	1	2	3	4	
	(5) 何かにつかまったり、床にさわらないでも、床の上のおもちゃなどをひろいあげることができますか。	1	2	3	4	
	(6) 鉛筆をあげて、紙の上になぐり書きするかどうかみてください。手をとって動かしたり、やり方を教えないでもなぐり書きをしますか。(鉛筆をなめたり、たたいたりしている時は“いいえ”にしてください)	1	2	3	4	
	(7) ころんだり左右によろめいたりしないで広い部屋を歩けますか	1	2	3	4	
	(8) 泣いたりせずに欲しいものを示すことができますか 指さしたり、ひっぱったり、うれしそう声を出して欲しいものを示すなら“はい”にしてください。	1	2	3	4	
	(9) おとうさんに“パパ”といいますが、おかあさんに“ママ”といいますがどちらかを言えば“はい”にしてください。また意味のあることばを一語言えば“はい”にしてください。	1	2	3	4	
	(10) 家事をしている時、あなたがしていることをまねしますか	1	2	3	4	
(11) 自分でコップをもってこぼさないで飲めますか	1	2	3	4		
(12) お子さんの方にボールをころがすとあなたの方へボールをころがしたり、投げ返しますか。ボールを手渡すだけだったり、やろうとしない時は“いいえ”にして下さい。	1	2	3	4		
父の最終学歴	1.中卒 2.高卒 3.短大卒 4.大卒 5.その他()	アンケート記入月日		年	月	日
母の最終学歴	1.中卒 2.高卒 3.短大卒 4.大卒 5.その他()	お子さんの生年月日		年	月	日

そのほかに心配なこと、相談したいことがありましたらお書きください。

診 察 記 録	診 察 結 果		指 導 区 分		備 考
	(1) 問題なし	計 測	1. 異常なし		
	(2) 問題あり	体 重 身 長 カウプ指数	Kg cm	2. 助言指導 3. 追跡観察 4. 精密検査 5. 要 治 療 6. 施設紹介	
	内容				
				担当医	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1 はじめに

乳母児の健全育成をめざして各期に乳幼児健診が実施され、1才6か月児健診は昭和52年度に市町村を実施主体として勧奨された。